

2019年3月期 第2四半期 決算説明会 質疑応答の要約

質問者 1

①クラウドソリューションで発生した不採算の性質と金額、下期業績への影響を教えてください。

事業システムのクラウド化を進める領域で、ソリューションはCRMです。何千人という営業マンが日々の商談をまとめるなどの用途で利用するもので、CRMの後ろに顧客情報や品質情報といったデータがあります。赤字規模は約1億円です。納品予定は今期第3四半期ですが、上期に引当金を計上しているため下期への影響はありません。

②IoT Core Connect のビジネスモデルを確認したい。

15分に1回データが送られてくると、1時間に4回、1日に約100回となります。送られてくるデータ量によって月額料金が変わりますが、数十万の月額費用で展開することができます。何分に1回、どれぐらいのセンサーからデータを取ってくるのかという個数の従量制となっております。

③セキュアIoTプラットフォームは、ほとんどがARMのチップを利用するなど、グループの社内資源で実現しているのか教えてください。

ARM社のチップも利用しますが、ベンダーニュートラルです。弊社のサイバートラストは、日本国内にある認証局を持っている点、世界に展開している認証局とのフェデレーションが結べる点がユニークです。

④ソフトバンク(株)は WeWork や DiDi などの JV を立ち上げて事業化をされていますが、御社はどうか関わっていきますか。

ソフトバンク(株)は、ソフトバンクグループ(株)が投資した会社の日本国内展開といったものの指揮をとる形になると思います。その際、日本法人のコーポレートIT(情報システム部門向け)の領域はお手伝いが増えていくと思います。

質問者2

⑤第2四半期のみを切り取った際に、限界利益は増加していますが経常利益は減少しています。固定費が増加したことと思いますが、その内容を教えてください。

子会社であるサイバートラストの固定費が影響しています。昨年の合併後、オフィスの統合も行き、オフィス移転費用が生じています。引っ越し中の賃料が二重で掛かる、あるいは旧オフィス設備の加速償却などにより、固定費が大きくなりました。

⑥経常利益、純利益に影響があった内容について、改めて説明してほしい。

データアナリティクスの分野で、4年前に事業シナジーがあるとして投資をした先ですが、17年度第4四半期では、一過性で非常に大きな収益が発生しましたので、持分法損益を営業外収益で取り込みました。ところが一転して、今期上期に関しては非常に大きな損失が発生し、その分を営業外損失で計上いたしました。データアナリティクスの分野において事業シナジーが見込めなくなった事もあり、この上期において株式を全て売却いたしました。その結果、売却益に関しては特別利益で計上しております。売却をしましたので、下期以降はこういった損失は発生いたしません。

⑦公共の受注残の中身、考え方を教えてください。

過去に大型の開発案件を受注し、構築後の複数年運用という形で運用・サービスの受注残が積みあがっています。大きいもので言えば、ひとつが5年で50億円程度の農地関連システムの運用、もう一つは自治体情報セキュリティクラウドです。これらについて、年間で10億円程度が売上に計上されています。